



作業時間が従来の5割～3割程度まで短縮できました。

ISの画像ワンマンは驚くほど簡単！「評価も上がりAクラス工事の受注が増えました。」

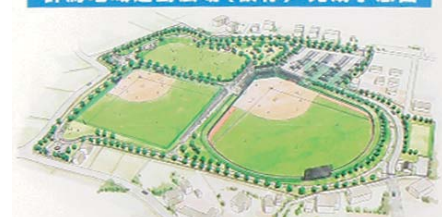
「高崎縁起だるま」で有名な群馬県高崎市に位置する株式会社坂本工業様は、舗装・土木・建築を得意とする地元トップクラスの総合建設業者である。同社では約5.5ヘクタールの区域に野球場などを整備する、高崎市群馬地域運動広場（仮称）の工事にイメージングステーション ISと自動視準パルスータルステーション GPT-9000ACを活用した。同社工務部係長の上野 丘様は、「以前はパルスータルステーションGPT-7000を使用していました。その時、代理店さんに熱心に薦められたのがGPT-9000ACでした」と当時を振り返る。購入にはためらいもあったが、実際に現場でGPT-9000ACを使うと使い勝手がよく、手放せなくなったのだという。「とにかく自動視準がラクです。望遠鏡を覗き込んで合わせる時間が短いですし、杭打ちの際にも正確な角度に本体が



自動で向いてくれるため安心です」と上野様は自動視準トータルステーション（以下TS）のメリットを感じたとのこと。「特に路線丁張りなど測点数の多い工事では、従来のマニュアルTSでの作業と比べて5割～3割程度まで作業時間が短縮でき、効率が格段にアップしました。高さ管理にもTSを使えるようになったので、6千万円規模の受注工事でレベルは1度しか使いませんでした。それに土工掘削の施工管理などをデジタル管理に変えたことで、発注元の工事成績など評価のプラスにもつながっています」と上野様は導入の成果を語る。

これに続くIS導入の経緯について同社取締役工務部長の五十嵐 秀夫様は次のように話す。「マニュアルTSでは、要所でテープでの距離確認をしないと不安です。それにGPT-9000ACに慣れた技術者がマニュアルTSを使うと作

群馬地域運動広場（仮称）完成予想図



業効率が大きく落ちるので、今後導入する機械はモーター付TS以外考えませんでした。情報化施工への対応及び技術者の育成を社内を進める為には、今以上に効率化が図れ、同時に技術者のレベルアップを図れる測量機を導入したい」との考えで、最新の測量機であるISを選択したのだという。当初上野様はワンマン測量には懐疑的であったが、「ISの画像ワンマンなら直感的に操作ができる」と見方が変わったという。「最初は操作に不安はありましたが、実際に使ってみるとGPT-9000ACと同等もしくはそれよりも簡単でした」と上野様。最後に上野様は「IS導入後、発注元からの評価も上がり、Aクラスの工事受注が増えました。さらにISは観測点がリアルタイムで見えるので安心ですし、ミスも防げます」と語る。坂本工業様はよりいっそう信頼される企業となるため、最先端技術の導入と技術力アップに邁進している。



株式会社坂本工業
取締役工務部長 五十嵐 秀夫 様

株式会社坂本工業
工務部係長 上野 丘 様